

スポーツ・レクリエーション指導者養成課程科目設置基準(令和6年度カリキュラム版)

基準カリキュラム		課程認定校での学習内容および科目編成の基準			
区分	科目	科目のねらい	学習内容	課程認定校での学習内容の基準	科目設置の基準
理論科目 12時間以上	スポーツ・レクリエーション概論 (1.5時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーションとはなにかを理解する ・スポーツ・レクリエーション指導者の使命を理解する ・スポーツ・レクリエーション支援の考え方や方法を身につける 	1-1 スポーツ・インライフの理念、スポーツ・レクリエーションをとした心の元気づくり	<p>(1)「スポーツ・レクリエーション概論」、「コミュニケーション・ワーク理論」、「スポーツ・レクリエーション生理学」、「スポーツ・レクリエーション心理学」、「スポーツ・レクリエーションプログラムの立案」それぞれの「科目のねらい」が達成されるよう科目を組むこと。この際、学科の特性やねらい、学生が目指す将来像にあわせた学習内容や教材等を用いて授業を構成することが望ましい。</p> <p>(2)以下の学習を授業内容に組み入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ・レクリエーション概論 <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ・レクリエーションとは ②スポーツ・レクリエーション指導者の使命 ③スポーツ・レクリエーション支援の考え方・方法 ●コミュニケーション・ワーク理論 <ul style="list-style-type: none"> ④アイスブレイキングとは ⑤アイスブレイキング・モデルとは ⑥参加者に寄り添った支援に大切なホスピタリティ ●スポーツ・レクリエーション生理学 <ul style="list-style-type: none"> ⑦主要な健康課題と各ライフステージの特性 ⑧各ライフステージの特性に応じて必要となる運動 ⑨運動を実施する際の留意点 ●スポーツ・レクリエーション心理学 <ul style="list-style-type: none"> ⑩心の健康づくりの重要性 ⑪健康の定義 ⑫スポレク活動の心理的健康への恩恵 ⑬参加者の主体性や意欲を引き出すスポレク活動支援 ⑭スポレク活動の支援に必要な指導者の心理的能力 ⑮発達段階の特性を踏まえたスポレク活動の支援 ●スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 <ul style="list-style-type: none"> ⑯場面を想定したプログラムの立案 ⑰安全管理の基礎 <p>(3)学習した内容が、実技科目や現場実習につながるように配慮する。</p>	<p>①「スポーツ・レクリエーション」を冠した理論もしくは演習科目を、1科目以上1単位以上で設置すること。</p> <p>②「スポーツ・レクリエーション」を冠した科目が設置できない場合、既存科目との学習内容の対応により読み替えることができる。</p> <p>③学則上、教育カリキュラムに位置づいた科目であること。</p> <p>④実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、12時間を下回らないこと。</p> <p>④実習科目に先立って設定されていることが望ましい。</p>
	コミュニケーション・ワーク理論 (1.5時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション支援とはなにかを理解する ・対象者に寄り添って信頼関係を築くホスピタリティの理論を理解する ・参加者の心をほぐし良好な集団づくりを実現させるアイスブレイキングの方法を身につける ・心の仕組みに裏付けられたレクリエーション支援の方法を身につける 	2-1 参加者の心をほぐし良好な集団づくりを実現させるアイスブレイキングと対象者に寄り添って信頼関係を築くホスピタリティの理論		
	スポーツ・レクリエーション生理学 (3時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な健康課題と各ライフステージの特性を知る ・運動やトレーニングの基礎的理解 ・各ライフステージで注意が必要となるポイントを知る ・運動を実施する際の留意点を理解する 	3-1 ステージに応じた体の仕組みと必要な運動 3-2 実施の留意点		
	スポーツ・レクリエーション心理学 (3時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・心の元気づくりの重要性を理解する ・各ライフステージでのスポーツ・レクリエーション活動の心理的健康への恩恵を理解する ・参加者の主体性や意欲を引き出すスポーツ・レクリエーション活動支援の方法を身につける ・スポーツ・レクリエーション活動の支援に必要な指導者の心理的能力を理解する ・発達段階の特徴を踏まえたスポーツ・レクリエーション活動の支援の方法を理解する 	4-1 スポーツ・レクリエーション活動がもたらす心理的效果 4-2 動機づけの理論と自主的主体的な活動につなげる心の仕組み		
	スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 (3時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を想定してプログラムを立案する方法を身につける ・求められる安全管理を理解する ・危険を予測して回避する方法を身につける ・救急対応、緊急体制の方法を習得する 	安全に楽しみながら活動できるプログラムの作成 リスクマネジメント		

区分			学習内容	課程認定校での学習内容の基準	科目設置の基準
実技科目39時間以上	スポーツ・レクリエーション支援法 (3時間以上)	・アイスブレーキング、アイスブレーキング・モデルを理解する ・ホスピタリティ演習によるホスピタリティの理解 ・活動を展開する際に必要な支援技術を習得する	6-1 コミュニケーション・ワーク実践 6-2 動機づけの理論と心の仕組みを理解したアプローチの方法 ～やる気を育て継続を促す～	(1)「スポーツ・レクリエーション支援法」、「生理学に基づいたスポーツ・レクリエーション活動の習得と心理学に基づいた提供方法」、「スポーツ未実施者に適した種目の習得」、「スポーツ・レクリエーション支援」、それぞれの「科目のねらい」が達成されるよう科目を組むこと。この際、学科の特性やねらい、学生が目指す将来像にあわせた学習内容や教材等を用いて授業を構成することが望ましい。 (2)以下の学習を授業内容に組み入れる。 ●スポーツ・レクリエーション支援法 ①アイスブレーキング・モデルに沿ったレク活動の体験 ②スポレク活動の演習をととした支援技術の理解 ③演習をととしたホスピタリティの理解 ●生理学・心理学に基づいたスポーツ・レクリエーション活動の実践 ④各ライフステージの特性に応じて必要となる運動の習得 ⑤スポレク活動を実施する際の留意点 ⑥参加者の主体性や意欲を引き出すスポレク活動の実施方法 ●スポーツ未実施者に適した種目の習得 ⑦ウォーキングやインディアカなどの種目について、楽しみながら実践できる展開方法とあわせて習得 ※1種目8ページ程度の資料を想定 ●スポーツ・レクリエーション支援 ⑧立案したプログラムをもとにウォーミングアップ、リードアップの実演をととして、実践現場へ活かす ⑨スポーツ・レクリエーションが果たす役割を踏まえ資格取得後の地域、職場等での活動事例の学習 (3)実技の体験にとどまらず、考え方や方法など実技に関わる理論とあわせて学習できるように配慮する。	①実技科目もしくは演習科目として2単位以上で設置すること。科目数は問わないが、「スポーツ・レクリエーション」を冠した科目を1科目以上1単位以上含めること。 ②「スポーツ・レクリエーション」を冠した科目が設置できない場合、既存科目との学習内容の対応により読み替えることができる。 ③学則上、教育カリキュラムに位置づいた科目であること。 ④実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、39時間を下回らないこと。 ⑤演習・実習科目に先立って設定されていることが望ましい。
	生理学・心理学に基づいたスポーツ・レクリエーション活動の実践 (9時間以上)	・幼児期の特徴の理解 ・この時期にふさわしい動きや運動遊びの提供方法について習得する ・学童期の特徴の理解 ・この時期にふさわしい動きや運動遊びの提供方法について習得する ・高齢期の特徴の理解 ・この時期にふさわしい動きや運動の提供方法について習得する	7-1 幼児期の体の仕組みに合わせた運動実践 ～楽しさを活かしたリードアップ方法～ 7-2 学童期の体の仕組みに合わせた運動実践 ～楽しさを活かしたリードアップ方法～ 7-3 高齢期の体の仕組みに合わせた運動実践 ～楽しさを活かしたリードアップ方法～		
	スポーツ未実施者に適した種目の習得 (24時間以上)	・ニュースポーツ種目の体験をととして、種目の楽しさを理解する ・成功体験が積み重ねられるようなリードアップの方法を身につける ・スポーツが苦手だと思っている人やうまくできない人への展開方法を身につける	8-1 種目プログラム1 8-2 種目プログラム2 8-3 種目プログラム3 8-4 種目プログラム4		
	スポーツ・レクリエーション支援 (3時間以上)	・立案したプログラムをもとにウォーミングアップ、リードアップの実演をととして、実践現場へ活かす ・スポーツ・レクリエーションが現代社会の課題である子どもの体力向上や高齢者の健康寿命の増進に果たす役割	9-1 スポーツ・レクリエーション活動の実際		
	区分				
実習科目9時間以上	現場実習 (9時間以上)		事業参加 スタッフ参加		